

ともに支える認知症

平成29年7月末現在の登別市における65歳以上の人口は16,971人で、5年前と比べても、65歳以上の人口は1,927人増えており、全人口のうち、65歳以上の割合を示す高齢化率は34.6%で、5.5ポイント増加しました。内閣府が公表している『平成29年版高齢社会白書』によると、2025年には65歳以上の国民のうち、5人に1人が認知症を発症するという推計もあり、全国的にも認知症の人は今後、増えていくことが予想されています。

認知症は身近な病気の一つです。認知症の人との接し方について、考えてみませんか。

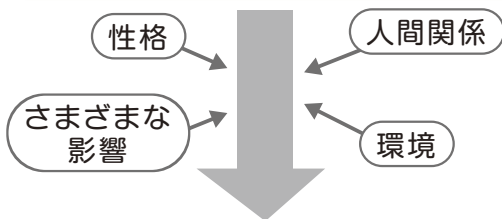
認知症と加齢によるもの忘れの違い

人は加齢によって、さまざまな機能が衰えます。脳の機能においても同様であり、歳を重ねるごとに、もの忘れの回数が多くなることもありますが、認知症によるもの忘れとは異なります。

認知症は、脳の細胞が死んだり、働きが悪くなることで、さまざまな障害が起き、生活上の支障が、6カ月以上続いた状態のことをいいます。加齢によるもの忘れは、夕食のおかずを思い出せないなど、体験の一部を忘れるのに対し、認知症によるものは、夕食を食べたこと自体を覚えていないなど、体験の全てを忘れてしまうという特徴があるため、日

中核症状

- 記憶障害
物事を思い出せない
- 実行機能障害
作業の段取りをうまくすることができない
- 見当識障害
日時や場所の判断ができなくなる
- 理解・判断力の障害
理解や判断ができなくなる



行動・心理症状

- 暴力・暴言
- 不潔行為
- 抑うつ
- 幻覚
- はいかい
- 妄想
- 睡眠障害

日常生活に支障をきたしてしまうので

認知症ってどんな病気

認知症の症状には、『記憶障害』などの4つの『中核症状』と呼ばれる基本的な症状と、本人の性格や環境、人間関係など、さまざまな影響が加わることで表れる、はいかいや妄想など、『行動・心理症状』の二つの症状があります。

認知症を引き起こす原因はさまざまです。脳内の神経細胞が破壊され、脳に萎縮が起こることや発症する『アルツハイマー型認知症』や、脳梗塞や脳出血により、脳細胞に十分な血液が送られず、脳細胞が死滅することで発症する『脳血管性認知症』

などがあります。

アルツハイマー型認知症については、進行を抑えたり、緩めたりする治療薬があり、脳血管性認知症についても、早期に発見し、治療することで進行を遅らせることができる場合もあります。認知症に似た症状であっても、治る病気や一時的な症状の場合もあるため、認知症を疑った時には、できるだけ早く医療機関などで相談や受診することが大切です。

相談先医療機関など

(1) 認知症疾患医療センター

市内には、認知症の専門医療相談、鑑別診断（検査・専門医の診察）などができる医療機関として指定を受けた二つの病院があります。

◎ 恵愛病院 (☎ 870100)

◎ 三愛病院 (☎ 833207)

(2) 地域包括支援センター

高齢者への総合的な相談窓口として、保健師や社会福祉士、主任介護支援専門員（ケアマネジャー）、認知症地域支援推進員などがある地域包括支援センターが市内には、三つあります。認知症について、気になることがあれば、地域包括支援センターへご相談ください。

◎ あおい（愛校） (☎ 830511)

◎ ゆのか (☎ 882106)

◎ けいあい (☎ 825005)